

(社寺林など郷土景観)が11% (190件, 144件)となる(表3-7)。なお,ここでは省略しているが,各選定基準の詳細は2-3章に示してある。

具体的な変化状況の割合は,「面積に著しい変化あり」が選定基準G (8%, 38件), B (7%, 42件) およびF (7%, 13件)の順で多く,「群落構成に著しい変化あり」が選定基準D, F, Hで8% (93件, 14件, 48件)であった。「個体数に著しい変化あり」は,選定基準BおよびCで割合が多く(共に6%, 39件および33件)次いでG (5%, 25件)が多かった。「群落または個体群の消滅」は,選定基準Gで最も多く(5%, 27件),次いでBおよびDで4% (22件, 47件)であった。

変化の多かった選定基準Gの群落における変化状況の具体的な記述をみると,特定の種や個体群に対する盗採などの個体数の減少とあわせて,周辺の開発や荒廃などの生育環境の変化が多くあげられていた。

削除群落は選定基準Fで4% (7件), Dで3% (33件), EおよびGで2% (25件, 11件)であった。

3-4. 相観区分別変化状況

表3-8に特定植物群落の相観区分別の変化状況(件数上位20まで)を示した。何らかの変化があった群落の割合は,「浮葉・沈水植物群落」で最も多く(39%, 17件),次いで「湿地植生」で25% (74件),「海浜植生」で24% (39件),「常緑針葉高木植林」で23% (20件),「個体群」および「暖温帯常緑針葉高木林」で21% (120件, 45件)となる。

具体的な変化状況の割合は,「面積に著しい変化あり」が「海浜植生」(12%, 20件),「常緑針葉高木植林」(10%, 9件),「湿地植生」「暖温帯夏緑広葉高木林」「浮葉・沈水植物群落」(共に9%, 27件, 14件, 4件)の順で変化した群落の割合が多かった。「群落構成に著しい変化あり」では,「浮葉・沈水植物群落」(16%, 7件),「湿地植生」「暖温帯常緑針葉高木林」「常緑針葉高木植林」(共に12%, 37件, 26件, 10件)の順で多く,「個体数に著しい変化あり」では「個体群」が10% (55件)と他の相観区分に比べて非常に多く,次いで「冷温帯植生」(4%, 3件),「湿地植生」「亜寒帯常緑針葉高木林」「冷温帯夏緑広葉低木林」(共に3%, 9件, 2件, 2件)となる。「群落または個体群の消滅」は,「浮葉・沈水植物群落」(11%, 5件),「湿地植生」(7%, 22件),「暖温帯夏緑広葉高木林」(6%, 9件)の順で変化した群落の割合が多かった。

削除群落は「暖温帯夏緑広葉高木林」「浮葉・沈水植物群落」で11% (17件, 5件)と最も多く,次いで「暖温帯常緑針葉高木林」(8%, 16件),「湿地植生」「常緑針葉高木植林」(共に7%, 20件, 6件)であった。

「暖温帯夏緑広葉高木林」で削除が多かった理由として,神社の社叢や社寺林における森林伐採や,台風による被害が複数あげられていた。

「浮葉・沈水植物群落」は,干拓地浚渫事業や水質の悪化で,水生植物が消滅したことなどが原因とされる。

「暖温帯常緑針葉高木林」は,マツクイムシによるアカマツ林の被害や,ダム建設や宅地増設などの開発でアカマツ林やコウヤマキ林が消滅したことによる。

「湿地植生」は削除された件数では最も多いが,湿地の周囲・周辺の開発により湿生植物群落や個体群が消滅したり,生息地に親水公園や水郷公園が建設されたことなどが主な

表3-7 選定基準別変化状況
(件数)

選定基準	面積、群 落構成とも 著しい変 化なし	何らかの 変化あり	面積に著 しい変化 あり	群落構成 に著しい 変化あり	個体数(個体 群選定の場 合)に著しい 変化あり	群落又は 個体群の 消滅	削除群落	未記入	調査群落 数	未調査群落	群落件数
A	1,599	190	96	75	8	25	26	17	1,806	156	1,962
B	487	120	42	33	39	22	7	18	625	17	642
C	475	106	32	34	33	16	6	8	589	25	614
D	967	210	75	93	29	47	33	12	1,189	106	1,295
E	1,107	144	39	80	7	32	25	16	1,267	49	1,316
F	150	27	13	14		4	7	2	179		179
G	376	112	38	33	25	27	11	11	499	27	526
H	518	105	23	48	24	20	7	11	634	21	655

*「何らかの変化あり」は、「面積、群落構成ともに著しい変化なし」以外の変化状況を一括したものである。
(割合)

選定基準	面積、群 落構成とも 著しい変 化なし	何らかの 変化あり	面積に著 しい変化 あり	群落構成 に著しい 変化あり	個体数(個体 群選定の場 合)に著しい 変化あり	群落又は 個体群の 消滅	削除群落	未記入	調査群落 数	未調査群落	群落件数
A	89%	11%	5%	4%	0%	1%	1%	1%	1,806	8%	1,962
B	78%	19%	7%	5%	6%	4%	1%	3%	625	3%	642
C	81%	18%	5%	6%	6%	3%	1%	1%	589	4%	614
D	81%	18%	6%	8%	2%	4%	3%	1%	1,189	8%	1,295
E	87%	11%	3%	6%	1%	3%	2%	1%	1,267	4%	1,316
F	84%	15%	7%	8%		2%	4%	1%	179		179
G	75%	22%	8%	7%	5%	5%	2%	2%	499	5%	526
H	82%	17%	4%	8%	4%	3%	1%	2%	634	3%	655

*「何らかの変化あり」は、「面積、群落構成ともに著しい変化なし」以外の変化状況を一括したものである。
* 0%と記入されているものは、1%未満(件数0ではない)。

表3-8 相観区分別変化状況
(件数)

相観区分	面積、群落構成とも著しい変化なし	何らかの変化あり	面積に著しい変化あり	群落構成に著しい変化あり	個体数(個体群選定の場合)に著しい変化あり	群落又は個体群の消滅	削除群落	未記入	調査群落数	未調査群落	群落件数
暖温帯常緑広葉高木林	1,094	103	37	55	4	12	22	15	1,212	65	1,277
冷温帯夏緑広葉高木林	505	72	45	14	5	14	18	4	581	58	639
個体群	446	120	25	27	55	24	26	9	575	4	579
湿地植生	223	74	27	37	9	22	20	2	299	27	326
暖温帯常緑針葉高木林	164	45	13	26	2	7	16	3	212	5	217
冷温帯常緑針葉高木林	162	25	14	5	1	7	9	1	188	12	200
暖温帯植生	163	23	7	14	2	3	3	1	187		187
海浜植生	123	39	20	10	2	9	8	2	164	23	187
暖温帯夏緑広葉高木林	123	32	14	11	2	9	17	5	160	2	162
植生一般	83	8	6	1		2	1	1	92	10	102
冷温帯植生	71	13	4	9	3				84	15	99
岩上、多礫地草本植生	73	8	2	2	2	2	2	2	83	8	91
亜寒帯常緑針葉高木林	54	9	2	6	2	1	1	2	65	25	90
亜熱帯常緑広葉高木林	78	4	1	2		1	1	4	86		86
常緑針葉高木植林	66	20	9	10		4	6		86		86
冷温帯夏緑広葉低木林	56	9	1	7	2	1	1	1	66	7	73
亜寒帯植生	29	1		1				3	33	36	69
暖温帯常緑広葉低木林	58	6	1	2	1	2	2	1	65	3	68
浮葉・沈水植物群落	27	17	4	7	1	5	5		44	1	45
高山荒原植生	41	1	1					1	43		43

(割合)

暖温帯常緑広葉高木林	90%	8%	3%	5%	0%	1%	2%	1%	1,212	65	1,277
冷温帯夏緑広葉高木林	87%	12%	8%	2%	1%	2%	3%	1%	581	58	639
個体群	78%	21%	4%	5%	10%	4%	5%	2%	575	4	579
湿地植生	75%	25%	9%	12%	3%	7%	7%	1%	299	27	326
暖温帯常緑針葉高木林	77%	21%	6%	12%	1%	3%	8%	1%	212	5	217
冷温帯常緑針葉高木林	86%	13%	7%	3%	1%	4%	5%	1%	188	12	200
暖温帯植生	87%	12%	4%	7%	1%	2%	2%	1%	187		187
海浜植生	75%	24%	12%	6%	1%	5%	5%	1%	164	23	187
暖温帯夏緑広葉高木林	77%	20%	9%	7%	1%	6%	11%	3%	160	2	162
植生一般	90%	9%	7%	1%		2%	1%	1%	92	10	102
冷温帯植生	85%	15%	5%	11%	4%				84	15	99
岩上、多礫地草本植生	88%	10%	2%	2%	2%	2%	2%	2%	83	8	91
亜寒帯常緑針葉高木林	83%	14%	3%	9%	3%	2%	2%	3%	65	25	90
亜熱帯常緑広葉高木林	91%	5%	1%	2%		1%	1%	5%	86		86
常緑針葉高木植林	77%	23%	10%	12%		5%	7%		86		86
冷温帯夏緑広葉低木林	85%	14%	2%	11%	3%	2%	2%	2%	66	7	73
亜寒帯植生	88%	3%		3%				9%	33	36	69
暖温帯常緑広葉低木林	89%	9%	2%	3%	2%	3%	3%	2%	65	3	68
浮葉・沈水植物群落	61%	39%	9%	16%	2%	11%	11%		44	1	45
高山荒原植生	95%	2%	2%					2%	43		43

*「何らかの変化あり」は、「面積、群落構成ともに著しい変化なし」以外の変化状況を一括したものである。

* 0%と記入されているものは、1%未満(件数0ではない)。

原因としてあがっている。

「常緑針葉高木林」は、開発により海岸林の群落が消滅したことなどが原因とされる。

3-5. 面積規模別変化状況

面積規模別にみた特定植物群落の変化状況は、面積が1,000ha未満で何らかの変化があった群落の割合が最も多く（21%，19件），次いで5,000ha未満と面積不明の群落で共に16%（14件，16件），1ha未満と500ha未満の群落で15%（201件，55件）となる（表3-9）。

具体的な変化状況の割合は、「面積に著しい変化あり」が1,000ha未満と5,000ha未満の群落で14%（13件，12件）と最も多く，次いで500ha未満の群落（9%，34件）となる。「群落構成に著しい変化あり」は，100ha未満と10,000ha以上の群落で8%（12件，1件），1,000ha未満で7%（6件），10ha未満で6%（104件）の順であった。「個体数に著しい変化あり」は，面積が不明の群落で7%（7件），1ha未満と5,000ha未満の群落で3%（42件，3件）となり，「群落または個体群の消滅」は面積が不明の群落で8%（8件），1ha未満で4%（50件），10ha未満で3%（49件）であった。

削除群落は1ha未満で5%（63件）と最も多く，次いで10ha未満（4%，72件），100ha未満（3%，7件）となる。

3-6. 保護地域との重複状況

ここでは保護地域が特定植物群落の保存状況にどのくらい影響を与えているか，変化状況との関係からみる。

選定された特定植物群落の変化状況と，保護地域指定との重複状況を表3-10に示した。

保護地域指定の有無と変化状況との関係をみると，保護地域指定と重複した特定植物群落が変化した割合が13%に対し，保護地域がない群落では16%となり，保護地域の効果が現れている。

保護地域の種類別では，原生自然環境保全地域（変化群落がない），都道府県立自然環境保全地域（変化群落の割合が11%）で変化が少なく，一方，都道府県立自然公園では変化群落の割合が16%と高い傾向がみられた。

具体的な変化状況は，「面積に著しい変化あり」が県立公園で7%（49件）と保護地域のない群落と比べ，割合が高い。「群落構成に著しい変化あり」では，国立公園，都道府県立自然環境保全地域で6%（46件，20件）の群落で報告され，保護地域のない群落と同じ水準を示している。「個体数に著しい変化あり」は，国立公園で3%（25件）と割合が高かった。「群落または個体群の消滅」は，都道府県立自然公園，都道府県立自然環境保全地域で3%（19件，9件）の群落で見られた。

特定植物群落の変化状況と保護地域の地種区分との関係を表3-11，12に示した。

特別地域などでは変化した群落の割合が12%と他と比べ低く，保護地域の効果が認められるが，普通地域などでは18%と保護地域のない群落よりも割合が高くなっている。特に，都道府県立自然公園普通地域（63件，20%）で高い傾向がみられた。

具体的な変化状況をみると，「面積に著しい変化あり」とされた群落は普通地域で8%認められ，その中では都道府県立自然公園の普通地域で30件と件数が多い。それ以外の，「群落構成に著しい変化あり」，「群落構成に著しい変化あり」，「個体数（個体群選定の場合）

表3-9 面積規模別変化状況
(件数)

面積規模	面積、群落構成とも著しい変化なし	何らかの変化あり	面積に著しい変化あり	群落構成に著しい変化あり	場合(一)に著しい変化あり	個体数(一)個体群選定の消滅	削除群落	未記入	調査群落数	未調査群落	群落件数
1ha未満	1,083	201	58	71	42	50	63	14	1,298	57	1,355
～10ha未満	1,456	233	71	104	30	49	72	15	1,704	57	1,761
～50ha未満	712	107	49	40	10	18	20	10	829	47	876
～100ha未満	213	35	12	20	5	4	7	2	250	19	269
～500ha未満	316	55	34	19	5	7	7	8	379	59	438
～1,000ha未満	71	19	13	6	1	1		1	91	24	115
～5,000ha未満	71	14	12	4	3			2	87	41	128
～10,000ha未満	11	1	1					2	14	8	22
10,000ha以上	9	1		1				2	12	5	17
不明	82	16	3	1	7	8	7	3	101	3	104
合計	4,024	682	253	266	103	137	176	59	4,765	320	5,085

*「何らかの変化あり」は、「面積、群落構成ともに著しい変化なし」以外の変化状況を一括したものである。

(割合)

面積規模	面積、群落構成とも著しい変化なし	何らかの変化あり	面積に著しい変化あり	群落構成に著しい変化あり	場合(一)に著しい変化あり	個体数(一)個体群選定の消滅	削除群落	未記入	調査群落数	未調査群落	群落件数
1ha未満	83%	15%	4%	5%	3%	4%	5%	1%	1,298	4%	1,355
～10ha未満	85%	14%	4%	6%	2%	3%	4%	1%	1,704	3%	1,761
～50ha未満	86%	13%	6%	5%	1%	2%	2%	1%	829	5%	876
～100ha未満	85%	14%	5%	8%	2%	2%	3%	1%	250	7%	269
～500ha未満	83%	15%	9%	5%	1%	2%	2%	2%	379	13%	438
～1,000ha未満	78%	21%	14%	7%	1%	1%		1%	91	21%	115
～5,000ha未満	82%	16%	14%	5%	3%			2%	87	32%	128
～10,000ha未満	79%	7%	7%					14%	14	36%	22
10,000ha以上	75%	8%		8%				17%	12	29%	17
不明	81%	16%	3%	1%	7%	8%	7%	3%	101	3%	104
合計	84%	14%	5%	6%	2%	3%	4%	1%	4,765	6%	5,085

*「何らかの変化あり」は、「面積、群落構成ともに著しい変化なし」以外の変化状況を一括したものである。

表3-10 保護地域別変化状況
(件数)

保護地域区分	面積、 変化なし 、群落構成とも著しい	何らかの 変化あり	面積に 著しい 変化あり	群落 構成に 著しい 変化あり	個体数 (個体群選 定の場合) に著しい 変化あり	群落 又は個体 群の消滅	削除 群落	未 記入	調査 群落数	未 調査 群落	群落 件数
国立公園	646	101	37	46	25	11	12	14	761	53	814
国定公園	652	90	36	36	14	13	17	5	744	48	792
原生自然環境保全地域	2							1	3	2	5
自然環境保全地域	15	2	1	1					17	1	18
国指定保護地域	1,309	192	73	83	39	24	29	19	1,517	103	1,620
都道府県立自然公園	545	104	49	32	12	19	23	5	654	63	717
都道府県立自然環境保全地域	306	40	13	20	6	9	6	3	349	24	373
保護地域あり	2,114	327	127	134	55	52	56	27	2,465	182	2,647
保護地域なし	1,910	361	126	132	48	85	120	32	2,300	138	2,438
合計	4,024	688	253	266	103	137	176	59	4,765	320	5,085

*「何らかの変化あり」は、「面積、群落構成ともに著しい変化なし」以外の変化状況を一括したものである。

(割合)

保護地域区分	面積、 変化なし 、群落構成とも	何らかの 変化あり	面積に 著しい 変化あり	群落 構成に 著しい 変化あり	個体数 (個体群選 定の場合) に著しい 変化あり	群落 又は個体 群の消滅	削除 群落	未 記入	調査 群落数	未 調査 群落	群落 件数
国立公園	85%	13%	5%	6%	3%	1%	2%	2%	761	53	814
国定公園	88%	12%	5%	5%	2%	2%	2%	1%	744	48	792
原生自然環境保全地域	67%							33%	3	2	5
自然環境保全地域	88%	12%	6%	6%					17	1	18
国指定保護地域	86%	13%	5%	5%	3%	2%	2%	1%	1,517	103	1,620
都道府県立自然公園	83%	16%	7%	5%	2%	3%	4%	1%	654	63	717
都道府県立自然環境保全地域	88%	11%	4%	6%	2%	3%	2%	1%	349	24	373
保護地域あり	86%	13%	5%	5%	2%	2%	2%	1%	2,465	182	2,647
保護地域なし	83%	16%	5%	6%	2%	4%	5%	1%	2,300	138	2,438
合計	84%	14%	5%	6%	2%	3%	4%	1%	4,765	320	5,085

*「何らかの変化あり」は、「面積、群落構成ともに著しい変化なし」以外の変化状況を一括したものである。

表 3-11 保護地域・地種区分別変化状況(件数)

保護地域	地種区分	著しい 面積、 群落構成 とも 変化なし	何らかの 変化あり	面積に 著しい 変化あり	群落構成 に著しい 変化あり	場合(個 体群選定の 個体群の消滅)	個体群の 消滅	群落又は 個体群の消滅	削除 群落	未 記入	調査 群落数
国立公園	特別保護地区	150	11	5	5	1			2	1	162
	特別地域	335	64	22	27	20	9		8	9	408
	普通地域	49	6	4	1	1					55
	上記の重複	112	20	6	13	3	2		2	4	136
	計	646	101	37	46	25	11		12	14	761
国定公園	地種区分不明	8	4	4						1	13
	特別保護地区	59	3		2	1			1	1	63
	特別地域	477	63	22	25	11	11		14	2	540
	普通地域	25	8	5	3	1	1			1	34
	上記の重複	83	12	5	6	1	1		2		94
	計	652	90	36	36	14	13		17	5	744
原生自然環境保全地域		2								1	3
自然環境保全地域	不明	2									2
	特別地区	10	2	1	1						12
	普通地区	1									1
	上記の重複	2									2
	計	15	2	1	1						17
都道府県立自然公園	不明	27	4		1	1	2		1		31
	特別地域	221	27	12	11	2	4		3	1	249
	普通地域	253	63	30	15	9	13		18	4	320
	上記の重複	44	10	7	5				1		54
	計	545	104	49	32	12	19		23	5	654
都道府県立 自然環境保全地域	不明	26	2	2	1	1				1	29
	特別地域	112	14	7	6	1	2		2		126
	普通地域	98	19	3	10	4	5		3	1	118
	上記の重複	70	5	1	3		2		1	1	76
	計	306	40	13	20	6	9		6	3	349

地種区分別合計	地種区分	著しい 面積、 群落構成 とも 変化なし	何らかの 変化あり	面積に 著しい 変化あり	群落構成 に著しい 変化あり	場合(個 体群選定の 個体群の消滅)	個体群の 消滅	群落又は 個体群の消滅	削除 群落	未 記入	調査 群落数
件数	特別保護地区、特別地 域、特別地区計	1,677	231	88	104	40	31		36	20	1,925
	普通地域、普通地区計	426	96	42	29	15	19		21	6	528
	保護地域なし	1,910	361	126	132	48	85		120	32	2,300
	全国	4,024	688	253	266	103	137		176	59	4,765
割合	特別保護地区、特別地 域、特別地区計	87%	12%	5%	5%	2%	2%		2%	1%	100%
	普通地域、普通地区計	81%	18%	8%	5%	3%	4%		4%	1%	100%
	保護地域なし	83%	16%	5%	6%	2%	4%		5%	1%	100%
	全国	84%	14%	5%	6%	2%	3%		4%	1%	100%

*「何らかの変化あり」は、「面積、群落構成ともに著しい変化なし」以外の変化状況を一括したものである。

表 3-12 保護地域・地種区分別変化状況(割合)

保護地域	地種区分	面積、群落構成とも 著しい変化なし	何らかの変化あり	面積に著しい変化あり	群落構成に著しい変化あり	場合(個体群選定の著しい変化あり)	減落又は個体群の消滅	削除群落	未記入	調査群落数
国立公園	特別保護地区	93%	7%	3%	3%	1%		1%	1%	162
	特別地域	82%	16%	5%	7%	5%	2%	2%	2%	408
	普通地域	89%	11%	7%	2%	2%				55
	上記の重複	82%	15%	4%	10%	2%	1%	1%	3%	136
	計	85%	13%	5%	6%	3%	1%	2%	2%	761
国定公園	地種区分不明	62%	31%	31%					8%	13
	特別保護地区	94%	5%		3%	2%		2%	2%	63
	特別地域	88%	12%	4%	5%	2%	2%	3%	0%	540
	普通地域	74%	24%	15%	9%	3%	3%		3%	34
	上記の重複	88%	13%	5%	6%	1%	1%	2%		94
	計	88%	12%	5%	5%	2%	2%	2%	1%	744
原生自然環境保全地域		67%							33%	3
自然環境保全地域	不明	100%								2
	特別地区	83%	17%	8%	8%					12
	普通地区	100%								1
	上記の重複	100%								2
	計	88%	12%	6%	6%					17
都道府県立自然公園	不明	87%	13%		3%	3%	6%	3%		31
	特別地域	89%	11%	5%	4%	1%	2%	1%	0%	249
	普通地域	79%	20%	9%	5%	3%	4%	6%	1%	320
	上記の重複	81%	19%	13%	9%			2%		54
	計	83%	16%	7%	5%	2%	3%	4%	1%	654
都道府県立 自然環境保全地域	不明	90%	7%	7%	3%	3%			3%	29
	特別地域	89%	11%	6%	5%	1%	2%	2%		126
	普通地域	83%	16%	3%	8%	3%	4%	3%	1%	118
	上記の重複	92%	7%	1%	4%		3%	1%	1%	76
	計	88%	11%	4%	6%	2%	3%	2%	1%	349

*「何らかの変化あり」は、「面積、群落構成ともに著しい変化なし」以外の変化状況を一括したものである。
0%と記入されているものは、1%未満(件数0ではない)。

に著しい変化あり」では，地種区分の違いによる群落の割合に大きな差は認められなかった。

群落の変化状況が大きく，リストから削除された群落の70%弱が保護地域のない群落に該当している（割合では5%）。原生自然環境保全地域，自然環境保全地域では削除群落は認められず，都道府県立自然環境保全地域でも6件（2%）と少なかった。一方，都道府県立自然公園普通地域では18件（6%），国定公園特別地域で14件（3%）とやや多い傾向がみられた。